

千葉市 手をつなぐ育成会だより

第 165 号

令和 3 年(2021)11月19日
千葉市手をつなぐ育成会
会長 成田 智子
千葉市稲毛区作草部2-4-5
でい・さくさべ 2階
TEL・FAX 043-206-4050
✉ chibacity-hands@ikusei-kai.jp

要望書 提出

声を
お聞かせ
下さい

8月12日、令和4年度予算編成および障害福祉計画に関する要望書を千葉市へ提出し回答をいただきました。

1 家族が入院により不在となった際の、在宅の知的障害児者への対応

【回答】家族等の介護者が(新型コロナウイルス感染症により)入院で不在となった場合には保健所と障害福祉関係部署が連携し、利用中のサービス事業所等と協議しながら本人やご家族の意向を踏まえて支援が滞らないよう調整を行うこととしており、引き続き対応してまいります。

2 計画相談支援専門員の増員

【回答】相談支援専門員の不足については重要な課題として認識しており、令和2年度に計画相談支援推進事業補助金制度(次年度以降は状況を踏まえ検討)を創設、計画相談事業所への後方支援を行う基幹相談支援センターを設置したところです。

3 市立病院への啓発の推進

【回答】障害者差別解消法に基

づき対応要領を平成28年4月1日付で策定しております。知的障害児者への合理的配慮の提供が行われるよう、全職員に周知徹底し、あたたかな共生社会の実現に取り組んでまいります。千葉県では障害のある人と医療関係者が円滑にコミュニケーションをとり適切な医療を受けられるよう「受診サポート手帳」を作成しており本市でも配布しておりますのでご活用ください。

4 紙おむつ給付

【回答】知的障害単独でおむつ給付の対象に追加することは、障害種別間のバランスを考慮すると正しい方向性であると考えますが、まずは他都市の状況を注視しつつ、知的障害者のおむつ使用状況及び具体的な対象者像等、研究に努めてまいります。

5 親や支援者が一緒に入る個別更衣室の設置(公共プール)

【回答】多目的更衣室の設置がある、こてはし温水プールを除き、各施設とも空き部屋を更衣室として対応させて頂きます。状況に応じて障害のある方の施設利用に配慮してまいります。※対象は千葉市が管理するプール、民間プールは含みません。

(会長 成田)

コロナに負けない、つなげていく育成会活動

第55回手をつなぐ育成会関東甲信越大会群馬大会が、7月11日(日)オンラインで開催されました。

【中央情勢報告】

平成30年度の法改正では「自立生活援助」「就労定着支援」がスタート、「日中サービス支援型グループホーム」や、介護保険サービスへの移行のための仕組みの制度化

令和3年度の報酬改定では、
・重度障害者への支援の拡充・相談支援事業の質の向上・新型コロナウイルス、災害対策の強化・就労継続A型・B型の報酬運用の変更
障害者虐待の防止や身体拘束の廃止に向けた取り組みをほぼ全サービスで義務化

令和6年より、民間事業者における合理的配慮の提供の義務化、そのためのキャラバン隊の啓発活動の重要性

【パネルディスカッション】

国立のぞみの園(群馬県高崎市、国立重度知的障害者総合施設・古川慎治氏からは、入所者数200人、平均年齢61.8歳と高齢化・重度化の進むのぞみの園では、職員5名に罹患が判

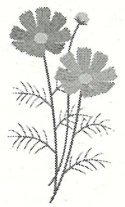
明、その後、通所支援等を全面ストップ、生活寮の閉鎖、関係した利用者、職員へのPCR検査を実施するなどした結果、収束までおよそ1ヶ月、利用者への罹患はゼロ。その後の罹患患者も1名も出ていない(6月30日現在)。

この経験から、感染に直面した際、いかに冷静に対応できるか、災害時同様に事前の準備の大切さについてのお話がありました。

関東甲信越ブロック長・小島幸子氏、東京都育成会理事長・佐々木桃子氏からは、知的障害者や家族が感染した事例、コロナ禍で知的障害者や家族が困ったこと、ワクチン接種の実態、会員同士がつながるための新たな取り組み、オンライン会合を始めたことで、今まで距離的に遠かった会員同士が繋がれたことなどのお話がありました。

全育連常務理事・又村あおい氏からは計画相談のサービス等利用計画の中に新型コロナウイルス感染症時における緊急対応プランを盛り込むことが必要であると発言がありました。

(広報部 小野塚)



特別支援学校に通う、中学三年生の男の子の母です。先日、約九ヶ月という長い自主休校期間を終え、登校を始めることになりました。

年始の緊急事態宣言時の頃から、登校するか否か悩む毎日でしたが、休むと決めた日は、朝から晩までパンデミックとは無関係かのような穏やかな時間が流れていました。会えない多くの方々に少し遠くから支えられながら、息子を守り過ごした貴重な時間は、濃厚な思い出となり、私たち夫婦の宝物となりました。

でも、横にも縦にもどんどん大きくなってきた息子は、刺激の少ない運動不足な日々、徐々にイライラすることが増えていつてしまったようでした。

自粛して過ごす限界を感じ始めた頃、ワクチンを暴れず逃げ出さず受けることが出来、そのうちに感染状況に明るい兆しがみえ、ようやく学校に行き始めました。ブランクを感じさせずにすぐに楽しそうに過ごす息子を見た時は、やはりほっとしました。早くデイサービスにも行かせてあげたいです。



今後同じ状況がきたら、また悩むことになると思います。状況でも、息子と共にこれから頑張っていきたいと思っています。

(理事 村井)

我が家の息子は年長で大宮学園に通っております。息子はお外に出かけることが大好きです。お散歩や、スパーに行くこと、電車やバスに乗ることも大好き。でもマスクは出来ないですし、あちこち触り、その手をお口に運んでしまうこともしばしば。コロナが流行り始めてからは、外出はお散歩程度、移動は車のみなど我慢の生活が続いています。

第5波の時には、学園もしばらくお休みをしました。平日は自宅

で、息子と私の二人で過ごす生活でした。これを経験し気づいたのですが、時々「一人になりたいな」と思うのは大人の私だけではなく、息子も同じだったようです。

じっくり二人で遊んだあと、別の部屋で息子は自分の世界(新幹線や電車が走っている世界のように)に入り込み、しばらく一人で過ごすとても落ち着いている様子でした。また、洗

濯機に洗濯物を入れボタンを押す、ペットボトルをつぶしゴミ箱に入れるなど、息子でも出来る家事を一緒にやってもらいました。将来はどの程度自立できるかわかりませんが、この自粛生活があったから洗濯が出来るようになったよと、元気に振り返る日が来たらいいなと思っています。

(理事 野嶋)

学齢期

活・思うこと

最初の緊急事態宣言時、学校の

休校中は放課後デイサービスが利用できる日とできない日がありました。日中在宅の日が増えるにつ

れて娘のストレスも溜まっていき、深夜になっても眠れないなどの困り事がありました。日中、散歩に連れ出すなどの工夫はしていましたが、もともと外活動は学校かデイサービスで、家ではゆっくり過ごすのが娘の生活スタイルだったため、本人はかなり戸惑っていたようです。

学校行事の中止や縮小が多く、学齢期ならではの学びの機会が失われてしまっていることを親としてはとても残念に思っています。が大変な状況にありながらも今できる精一杯を常に考えてくだ

さっている学校の先生方やデイサービスの職員さん達にはとても感謝をしています。

共働き家庭のわが家では、父親の在宅ワークと母親の休日・時差出勤を組み合わせて娘の在宅中の対応ができるように調整していますが、現在も関係先で感染者や濃厚接触者が出るたびに休校や休業になつてしまうため、仕事の調整に追われることが度々あります。これからも続くコロナ禍の生活を、家族や周囲の方たちの協力を得ながら乗り越えていきたいと思っています。

(本人・特別支援学校中学部

3年 女子)
(理事 齊藤)

今年の夏に35歳になった長女に障害がある事がわかってから何回も高い壁にぶつかった事はあった。家族の病気だったり本人の思春期の不安定であつたり、東日本大震災の時も大きな不安を心に抱えながらも「長女を気にかけてくれる人」にたくさん支えられ乗り越えてくる事ができた。

幼児期の頃から長女に家族以外の様々な形の人間関係を作ることが親としての私の一番の役割と考えてきたが、今回の「コロナ禍」は「なるべく人に会わない事」を求められ「この壁はどう乗り越えたら良いのか？」の正解がわからずマスクや消毒液を必死に購入し、家で過ごせるように長女の好みそうなDVDやパズルをネットで探しまくった。でも、結局、嫌がって絶対につけなかったマスクを場面に応じてつけられるように

なったのは「でい・さくさべ」の職員の皆様、ヘルパーさん、その他いつも長女とお付き合ひして下さっている人達の根気強い働きかけがあったのと、長女自身のいつもの生活の中で培われた生きる力によるものだと感じている。

コロナ禍においても長女の生活を心配し、知恵を絞って一緒に生きてくださる人達の大切さをこれまで以上に強く感じている。2021年秋である。

(理事 梶川)



生 活 の コ ロ ナ 禍



成人期

コロナ禍の生活では、正見さん(長男、47歳)の通所するいずみの家とでい・さくさべが利用者にも職員にも感染させないという強い決意から、各種の手立てを打つ一方、家庭での予防策や発熱した際の対応等を折に触れて連絡をしてくれ、こちらもしつかりしなければと励みになっています。電車を利用しての通所なので、昨年の緊急事態宣言期間中は、いずみの家を休みました。現在は時間差の登所と降所に行っています。検温は朝と夕の2回行い、37度

近い時は休ませました。休日の我が家での過ごし方は、変わりありません。正見さんも僕も、内にこもる方なので、旅行や遊び等が無くとも一向に苦にならないたちなものですから。

コロナ禍の中でも正見さんの行状は相変わらずです。実は以前妻の位牌や遺影を捨てたりしていますが、この夏は仏壇を捨てるといつて壊しています。最初、何故こんな事と怒りを覚えたのですが、「博全社(妻の葬儀社)のおじさんに渡す」とか「妻のお墓がある」平和公園に持つて行く」の発言から、そうする事によって彼のこだわりが軽くなるのなら、もう仕方がないと考えます。壊す途中でケガをされても困るので一緒に作業をしながら、心境は複雑でした。

コロナも、いつかは終息するでしょうがそれまでは、マスクを着用し、人混み(密閉、密集、密接)を避け、手洗い、うがい、消毒等の対策が続いていこうと考えます。

(副会長 佐久間)



私の娘は三十八歳です。現在、千葉市内の就労継続支援A型の事業所で働いています。新型コロナウイルス感染症が広まりはじめた二〇二〇年三月頃から職場では、マスクの着用、手指の消毒、毎朝の検温を行って感染防止に努めています。

コロナ禍での娘の生活は、以前の日用品を買ってくることもあり

とほとんど変わりはありません。少しは戸惑いがあるかと心配しましたが、案外けるつとしたもので、決まった時間に朝出かけ、夕方前に帰宅。また、運動不足にならないようにと、通勤時モノレールの最寄り駅まで(往復約五十分)歩いています。時々、お菓子や自分

(理事 傍島)



9月10日(金)、こども委員会とはたらく委員会合同、オンラインでのお話し会を行いました。

こども委員会14名、はたらく委員会5名の参加でした。

今回は、こども委員会から事前に集めた質問に対して、はたらく委員会の先輩の方々から、経験談を交えながらお話を伺いました。

進路選択から卒業後の生活については、皆さんのさまざまな経験をお聞きして、とても参考になりました。

また年金については、受給申請する際の注意点やアドバイスも教えていただき、学齢期から準備できることもあることがわかりました。専門的なお話をしてくださる参加者もいて、初めて聞く内容に「なるほど!」と思う場面も多々ありました。グループホームにまで話が広がり、勉強になりました。

学齢期よりも卒業後の生活が長いことはわかっていましたが、何を準備しどんな知識が必要かも学ぶことができませんでした。

はたらく委員会の皆さんが、卒業後の大人となった我が子と向き合う姿から、学齢期の思い悩む日々を乗り越えた充実感が見受けられたのも印象的でした。学齢期だからこそ「できないこと」に目を向けるだけでなく、今の時期を子供と楽しむことの大切さも教えていただきました。子供が幼少期から大人と、広い世代の親が集う育成会ならではのお話し会となりました。

こども委員会からの参加者からも、貴重な情報や経験談が聞けたと感想がきています。また、はたらく委員会の皆さんの心のこもった丁寧なお話に育成会のつながりを感じました。

ご参加いただいた皆さんありがとうございます。また是非、このような機会を作っていきたいと思っています。

(副会長 藤芳)



学齢期のわが子への心配は尽きるころがなく、ただただ漠然と不安に襲われる事もありました。そんなことを思い出しながら参加しました。先輩方の進路選択時のそれぞれの悩みや思いはこども委員会の方に伝わったと思います。

育成会のうごき 7月~10月

- 7月5・7日 まち歩き点検ワークショップ・稲毛地区
- 11日 第55回関東甲信越大会群馬大会・オンライン
- 8月2日 第17回千葉市地域自立支援協議会全体会・書面開催
- 12日 千葉市へ要望書提出・ヒアリング
- 27日 千葉市バリアフリー基本構想推進協議会
- 9月15日 心の輪を広げる体験作文・障害者週間のポスター審査委員会
- 30日 法人理事会・みなし決議にて決議の省略
- 10月12日 千葉市障害者福祉大会実行委員会
- 13日 千葉市特別支援教育推進大会実行委員会・オンライン
- 14日 第1回千葉市新基本計画審議会
- 28日 第2回千葉市新基本計画審議会
- 29日 「ふれあいの家」利用団体の意見交換会

*ホームページ URL <https://lkusel-kal.jp/> 随時更新しています。ぜひ、ご覧ください。

報告

熱海市伊豆山地区土石流災害義援金のご協力ありがとうございました。

育成会会計より4千円を加えて15万円を静岡県手をつなぐ育成会に送金しましたことをご報告いたします。

す。最後の質問で「これから...」を尋ねられて、あらためてこれからの長い生活やわが子との関わりを考えました。また私たちにも少し前を行く先輩方のお話を聞ける機会を作ればと思いました。

(副会長 竹村)

編集後記

◆コロナ渦で娘も在宅ワークになる時期がありました。時間を決めて持ち帰った作業をし、初めと終わりに電話連絡をしました。電話での会話はなかなかうまく喋れなかったものの、いい機会だったと思いました。

(竹村)

◆先日、私もとうとう新型コロナウイルスのワクチンを接種、当日は腕の痛みのみ。24時間後からは頭痛と怠さ、動悸。48時間後にはスツと症状が消えました。2回目の接種はすでに気が重く、いつか小学生の息子が接種となると不安いっぱいです。

(宮本)

